

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①利用者も地区民として、区費の徴収等散歩を兼ねて職員と利用者と一緒に隣保班を個別訪問している。②弓木野地区で山神様として崇拝されている毘沙門天様の清掃を利用者と職員で定期的実施していることに区民から感謝されている。	○ 右の内容を続けていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや朝の申し送りなどで運営理念・介護理念を共有し、具体的なケアについて意思統一できるよう意見交換している。 理念の共有が徹底されるよう、管理者より職員への周知が常時されている。	○ ゴールは入居者で、運営理念・介護理念を職員と共に共有できるよう気づきを大切にしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念・介護理念を玄関や事務室、廊下等見やすいところに貼り、パンフレットにも掲載している。 家族会、運営推進会議でも桃の家の理念を理解してもらえよう説明している。	○ 今後、家族への情報提供やスタッフと家族のコミュニケーションをとるうえで、全スタッフが入居者の現状を把握していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム外の散歩や利用者と一緒に区費の集金や市報などの配布等を行っている。 散歩の時、近隣の方に声をかけたりかけられたり、区の行事への参加ができるように努めている。	○ こちらからも積極的に声をかけ、桃の家へ来所される機会をつくる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭やお祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。	○ 学校行事などにも参加できるよう声かけを行っている。 地域の方々もホームへこられる様な行事など計画していきたい。 今後、更に地域と交流する機会を増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生・高校生の福祉体験の場所に利用してもらっている。	○	来年も継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の結果を踏まえ、改善していきたい。	○	職員へも自己評価及び外部評価結果の報告があり、改善点は全員で話し合い今後活かして行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真、ビデオにより、利用者の生活状況やサービス等について報告し、意見交換をしながらサービスの質の向上に活かしている。 参加されている方からの声に耳を傾けている。	○	参加者からの意見がもう少し聞けたらよい。そのためには会議ばかりではなく、桃の家の日常を知ってもらい、それに対するの第三者としての意見を頂きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護の拠点として利用していただきたい。	○	市役所と積極的に連携を図っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会をつくり学んでいく。	○	機会をつくり学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような状態にあらうとも尊厳のある介護を目標にしている。	○	家族会、職員研修の場において、認知症を理解し、ケアのスキルアップを図っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の上、署名、捺印を頂き、不明な点や疑問に思ふことなどないか再確認している。	○ 来所時でも分からないことを聞いてもらえるような対応を職員も心がける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを大切に、利用者の代弁者として忌憚のないご意見、要望を管理者自ら伺っている。	○ 全職員が笑顔で接することを、ケアの目標にしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に利用者の状況を話したり、写真などでみていただいている。金銭については本人の小遣い帳を明示し、領収書と残金を照らし合わせ確認してもらい、その都度サインをいただいている。特に日常生活で報告すべきことがあれば、その都度連絡をしている。	○ 桃の家便りの回数を増やせるよう工夫をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情らしいものはないが、その都度、管理者から気づいた点について報告があり改善するように心がけている。	○ 家族の不満が蓄積されないよう、何でも言っていただけ関係作りを目指している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングで意見が出され、それに対して管理者から適切な指示が出される。	○ 前向きな意見は導入し、モニタリングし、アセスメントしながら前向きに取り組んでいる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	希望休を事前に伺った後、シフトを調整しながら勤務表をつくっている。	○ 入居者中心のケアと、介護者の労務管理、介護者の資質等調和を大切にしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職予定者は、採用の時点で退職の1ヶ月前までに申し出るようお願いしている。ハローワークの求人応募は、公平に良い人材を求める手段として活用している。	○ 高齢者を尊敬できる人、料理が好きな人を採用の条件に人材確保に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護のプロとしての自覚を共有するために、県内外の研修に参加し出張復命を基に情報を共有している。	○ 全国認知症ケア全国大会に毎年交替で参加している。今後も続けていく計画である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の機会をつくって行きたい。	○ 早い時期に他グループホームの見学を実現したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と、3～4人の職員で1泊2日の温泉旅行を企画して、癒しの時間をつくっている。	○ 接遇研修と癒しを兼ねた研修であり、入居者をもてなす心構えが体得できるよう継続していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者自ら、利用者が安心して生活できる環境づくりが目標であり、職員の資質向上に日々努力している。	○ 朝の申し送りに45分費やし、情報の共有と周知に努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居されてから1ヶ月はアセスメントの時期と捉えている。利用者をはじめご家族にも不安を与えないよう配慮している。	○ 家族の要望や本人の好み、習慣を伺い、安心して生活できるようにスタッフ同士の気づきを漏らさず、アセスメントしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式を活用し、家族にA1～A4、B1～B4を渡し、出来る限りの情報を頂くようにしている。入居説明の時点でアセスメントをする他に、入居後の面会に家族との対話を持つよう努めている。	○ 家族側から遠慮せずに気づいたことを行っていただける雰囲気を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話をゆっくり聞く姿勢を大切にしている。	○	家族の気持ちを理解するよう努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に桃の家を見学して頂き、日帰りや体験宿泊、慣れるまで家族も一緒に泊まっていたなど、ご本人とご家族の意見に添ったサービス利用を行うように努めている。体調不良時は家族に付き添ってもらうことで、家族の安心につながっている。	○	自然と共有しながらケアに努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の大先輩として敬い、教えられる立場でケアしている。	○	職員の価値観も違うが、自分の老後と重ね、自分が満足するケアを実践する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族等の面会を、気持ちよく受け入れ、安心できる環境をつくっている。	○	笑顔をやさしく、微笑みの中で支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の絆を大切に、家族の要望に応えている。家に連れて帰りたいがおむつ交換が不安な場合は、可能な限り実現できるよう家族におむつ交換の方法を教えて、関係作りを支援している。	○	家族が今の時間を大切にできるよう、努力し協力する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いを大切に、神社仏閣に興味のある利用者には、神社の掃除を兼ねお参りに行く等している。	○	月2～3回の清掃は地域の方からも喜ばれており、認知症高齢者を理解していただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立することのないよう職員の助力により、気持ちを切り替えてもらっている。	○	認知症が進み、判断力が低下されている方も安心して生活できる場を確保している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	街で会ったときなど、こちらから挨拶をする等、入居中と変わらない態度で接する。	○	認知症を理解する機会となるよう普通にお付き合いを継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営者(管理者)自ら声をかけ、コミュニケーションをとっている。感謝の気持ちを忘れず、本人に合わせた話題や笑顔で対応している。	○	職員の価値観も違うが、自分の老後と重ね、満足するケアを実践するよう日々お願いしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のバックグラウンドアセスメントについて尋ねている。センター方式C-1-2のシートを使って本人らしさを共有するよう努めている。	○	全職員が、本人のこれまでを知る必要がある。アセスメントシートを職員が常に見ることができるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録に残し、情報を共有している。	○	日常生活の中で、気づいたことを記録に細かく残す。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、受け持ちの介護スタッフが生活援助計画を作成して本人中心のケアを全員で共有している。	○	パーソンセンタードケアを目標に取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の生活援助計画に沿って、全員で見直す機会をつくっている。	○	計画の見直し。 前回の計画後、どのようになったのか把握。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや生活の様子がケアに活かされる記録になるよう心がけている。	○	記録の大切さを共有している。
3. 能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ施設内にあるデイサービス利用者とランドゴルフ等、共有できる時間をつくっている。	○	馴染みの環境を大切にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大雨等災害の恐れが予想される時等、必ず地域の消防団や駐在員さんがグループホームを訪問され支援の気持ちを伝えられるので安心できる。	○	地域ぐるみで見守って頂き今後も輪が広がることを願っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ活用する機会がない。	○	ケアマネジャーに認知症を理解してもらい、認知症対応の事業所の所在をもっと広くアピールしていきたい。行政にも協力をお願いしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	デイサービスの対象者について協議の場を設けている。	○	地域密着型サービスの核としての役割を果たされるよう希望する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より、定期的に健康状態を把握していただき、利用者、家族も安心されている。	○	医療機関との連携が円滑であり安心している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要により、専門医との連携が主治医を中心にできており、助言を頂くことができる環境にある。	○	医療機関との連携が円滑であり安心されている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職を配置しており、医師と連携しながら医療面のフォローができる体制をつくっている。	○	非常の時、医師との連携が円滑に行くよう看護職を配置している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期にわたる入院の場合、地域医療連携室や医師等と連携して退院の時期を決めている。	○	地域連携室の果たす役割は大きく今後も連携していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望と主治医の意見を参考に同意書をつくり終末期にむけた対応をしている。	○	終の住処になるよう環境を整えていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示のもとに、スタッフ全員で家族の希望を受け入れられるよう取り組んでいる。	○	主治医の協力で終末期ケアを支援できる体制づくりをしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家の雰囲気や本人の気持ちを優先する。部屋替えをすることもあがるが、生活に支障を来たさすこともない。	○	柔軟に対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝、ミーティングで職員に繰り返し周知を図っている。	○ 尊厳の中で、プライバシーを保ってあげられるよう職員のスキルアップを図る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	人生の先輩として、尊敬の念で接するよう教育的、指示的係わりはしないことが運営理念であり実践している。	○ その人を大切にしたいケアを実現していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心のケアを大切にしている。	○ 1人ひとりを大切にしたいケアを実現していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望まれる美容室ではないが、可能な限り美容師を選び、本人らしい髪型に気を配っている。	○ 自己実現を大切に支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で野菜の収穫を行ったり、食材の下ごしらえ等の手伝いをしている。	○ 食事の準備や片づけが利用者とともにできる時間の余裕を作る
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	望む人には、夕食時にビールや焼酎(晩酌程度)を出している。 肉の苦手な人に魚を・・・など、好き嫌いに応じ別メニューを出している。	○ 嫌いなものは職員が把握、調理者と連携する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用して排泄パターンの記録を参考に、トイレ内で排泄を促している。 食事の前と後に定期的にトイレ誘導がなされている。	○	体調管理に配慮し、便秘の防止に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を楽しみにされるよう、お湯の温度や入浴時間を配慮している。	○	ゆっくりと入浴できる環境を整える。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣の延長として、昼寝等自由に過ごされるよう、その人に合わせた支援をしている。	○	ゆっくり休息できる環境を整える。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ、洗濯物干し、掃除、下水清掃、庭や畑の草取り、野菜の収穫を一緒に行っている。また、スーパーへの買い物や花見など気晴らし観光を行っている。	○	自由に生活できる環境を提供する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、家族の同意を得て、所持金を自分で管理されている方もある。	○	利用者と家族の話し合いの結果を尊重し自己管理能力のある方自分で所持されている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はできるだけ戸外に出られるよう働きかけ、散歩も日課になっている。	○	買い物等外に出る機会をつくっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春は花見、行楽地、夏は阿久根大島、そうめん流し、秋冬はつる見学と、季節に応じ観光を行っている。	○	昔を懐かしむ場所に出かけるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置されたり、ホーム内の公衆電話より本人から家族へ電話されている方もある。 本人の有する能力にあわせ、支援している。	○	本人の希望により、支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問され、利用者と楽しい時間を費やされるよう、お茶等で雰囲気を作って差し上げている。	○	利用者と楽しい時間を費やされるよう、お茶等で雰囲気を作って差し上げている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを原則としているが、共同生活を営んでいく中で、他利用者に与える危険防止策を視野に、やむを得ず家族の要望にも応えながら、全職員で介護方法について検討した結果、一定の時間に限り繋ぎ服を着用していたがざるを得ない状況に置かれることもあり、試行錯誤しながら身体拘束のないケアの実現に向けて鋭意努力している。	○	身体拘束のないケアの実践に向けて取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者自ら防犯予防に居室に施錠されている方もある。	○	施錠は夜間のみを原則としている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	黙示的接近をケアの基本に（手や口を出しすぎないように目は離さない）スタッフ間に周知している。	○	安全に事故防止を優先している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤は個人毎にケースに入れて保管。包丁等の危険物は夜間は台所に施錠して管理する。殺虫剤等は一定の場所で保管し事故防止につとめている。	○	今後も安全に事故防止を優先している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為、転倒防止にスロープの設置、のど詰め防止に食事形態等の配慮、誤薬防止のため食事中見守りを行っている。 ヒヤリハットの記録等を参考に、勤務中は危機管理意識を持ち事故防止に努めている。	○	ヒヤリハットの体験が事故防止に結びつくよう、職員は危機意識を持ち事故防止に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要により専門講師を招きリスクマネジメントの研修を実施している。	○	今後も引き続き研修の機会を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団、消防署員の指導を受けながら、定期的に消防訓練を実施し、助言・指導を仰いでいる。 日中・夜間共に災害になった時を想定し、避難訓練をしている。	○	消防計画に基づき定期的に訓練を実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	医師の助言を参考に職員全員で取り組んでいる。 リスクの高い利用者については、家族にも医師より往診時に説明してもらっている。	○	家族会等で実施状況の報告や協力をお願いしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック等を参考に、入居者の健康状態や気持ちの変化について見守り、必要により医師に相談している。	○	バイタルチェック等で入居者の健康状態や気持ちの状態の変化について見守り、医師に報告・相談していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり処方等をもとに服薬シールをつくり、薬の種類や内容を全職員で把握している。	○	誤薬の防止に努めながら、指示どおり服薬できるよう支援していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動、食事摂取等で排泄の状況を確認し、必要により医師より緩下剤を処方していただく等、快便状態を維持するよう見守っている。	○	体調管理の中で排泄状況を見守っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを全員実施している。1日1回食前に嚥下体操を職員の誘導で実施している。	○	口腔ケアを徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日チェック表に記録して把握し、必要により医師に報告している。	○	入居者の健康づくりと食生活を一体的に支援していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前に職員、利用者の手洗い・うがいの励行。一日1回次亜塩素酸ナトリウムで手すりの消毒を行う。厚労省や県のマニュアルに沿って実行できる体制をつくっている。	○	入居者、職員共に手洗い、うがいを徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	当番制で調理室の清掃や調理器具の洗浄等衛生管理を徹底している。 食材も新鮮な物を使い、事故発生に備え調理前、調理後の材料を保存している。調理従事者は徹底した手洗いの励行と定期的に検便を実施している。	○	調理室は常に清潔に保つように気をつけていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の人も気軽に訪問していただく様、玄関前ロータリーは植樹したり、親しみやすい設えをしている。	○	自動ドアでダブルタッチの出入り口に違和感はない仕様であり事故防止にもなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、ソファー、観葉植物を置き、共有空間作りをしている。 季節に合った花を生けたり、模様替え(冬はこたつ、夏は風鈴等)をしている。 共用トイレには、プライバシーを守る工夫に衝立を設置、夜間の照明は安眠の妨げにならないよう照明を落とせるよう設計されている。	○	可能な限りプライバシーを保ち、居心地の良さをケアの目標にしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やロビーにソファーを置き、利用者の井戸端会議のスペースを作っている。	○	可能な限り、居心地の良さをケアの目標にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具、こたつ、箆笥、仏壇、写真等を自由に持ち込んでおられる。	○	可能な限り、居心地の良さをケアの目標にしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度や温度を見ながら、エアコンを入れたり、湯たんぽを入れたり状況に応じた配慮をしている。	○	健康面の配慮と安心できる空間を提供していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人その人の身体機能に合わせ、必要により上がりぶちにスロープを設置したり工夫している。	○	自然に恵まれた環境の中で、生活を支えて行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口は敢えて上がりぶちをつけ、失認失行があっても自力で生活できるように設計されている。	○	ハード面も認知症の特性を活かした仕様になっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やサンデッキがあり、また出入り口には、随所にステンレスの手摺りを設置し、車椅子の方も安全に外に出られるようにスロープにしたりご利用者が自由に楽しめる空間にしている。	○	入居者がその人らしく安心して生活できる空間になるようハード・ソフト面で支えて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

〈力を入れている点〉

利用者の健康づくりのために食生活を充実している。

- ① 管理栄養士によるバランスの取れた献立作成と調理指導。
- ② 自家菜園で栽培した旬の野菜をふんだんに使った料理は、利用者に喜ばれ食欲増進につながっている。
- ③ 原材料と調理済食品を一定の期間保存している。

〈アピールしたい点〉

- ① 戸数86戸の山間の地域で、豊かな自然に恵まれ、利用者も四季折々の変化を体感される等、グループホーム桃の家は自然が財産である。
- ② 地元消防団の協力により安心して暮らせる環境をつくっている。(定期的実施している自衛消防訓練には消防団員自らが参加され、利用者・職員・消防団員が一体となって訓練に取り組んでおり、地元消防団の存在は大きい。)
- ③ 地域の方々もグループホームの存在を地域の誇りとされ、地域の行事には利用者を特別に招待していただく等、地域住民と共に生活できる環境にある。